

広報ほんべつ

本別

いいひと いいまち いきいきほんべつ

HONBETSU

2016

December
No.1058

12月

表紙

第18次本別町中学生・高校生
オーストラリア・ミッチェル訪問団



Pick up

- ✦ 第18次 町中学生・高校生ミッチェル訪問団研修体験記
- ✦ 本別町の児童・生徒の学力・生活の実態は！
- ✦ 本別のだいどころ
- ✦ 第5次行財政改革大綱を策定
- ✦ 農作物栽培実証実験「働くことができる」を実証



第18次 本別町中学生・高校生 オーストラリア・ミッチェル訪問団 研修体験記

町中学生・高校生国際交流研修派遣事業の訪問団（団名：Best Member、佐々木基裕 団長）の中高生団員11人が、10日間の日程で姉妹都市オーストラリア・ミッチェルを訪れ、ホームステイしながら交流を深め、見聞を広めて無事に帰町しました。今年は姉妹都市提携から交流25周年にあたり、高橋正夫町長・方川一郎議長も同行しました。

研修日程

- 10月9日(日) 本別町発、羽田空港発
- 10月10日(月) シドニー空港着、ミッチェル着
ホームステイスタート
- 10月11日(火) ブロードフォード中等学校訪問
ガルバーン公園 現地住民の講演
シーモア高校訪問
野生生物保護センター見学



ブロードフォード中等学校訪問

- 10月12日(水) ワーレン小学校訪問
キルモアインターナショナルスクール訪問
2009ウォンドン山火事記念公園訪問
ミッチェル市役所訪問
25周年記念祝賀・歓迎会



送別会

- 10月15日(土) ミッチェル発、メルボルン空港発
シドニー着、シドニー研修
- 10月16日(日) シドニー研修（ウォークラリー）
シドニー空港発予定が欠航
（シドニー泊）
- 10月17日(月) シドニー空港発、羽田空港着（羽田泊）
- 10月18日(火) 羽田空港発、本別着（帰着式）

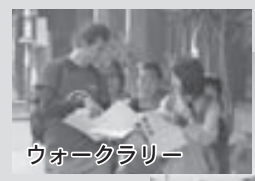


祝賀会でのケーキカット



記念のケーキ

- 10月13日(木) ホストファミリーと自由行動
- 10月14日(金) ボーリング
ショッピングセンター買い物
送別会（フェアウェルパーティー）



ウォークラリー



シドニーにて

感謝

指導員 小島佳佑
(勇足中学校教諭)



人と出会い共に過ごすというのは学校生活や社会等で経験できますが、海外の異なる文化に触れ、その中で生活をするというのは誰しもが経験できる訳ではない貴重な体験であると思います。短期間ではありますが、他文化の素晴らしさを肌で感じるとともに、不自由さも見つけられたこの研修が、派遣団の生徒にもたらしたものは計り知れません。英語や海外の素晴らしさを伝えたい私としては、今回そのお手伝いが出来てとても光栄でした。

個人的にも楽しみにしていたことがいくつかあり、その一つが現地の学校訪問でした。私は数年間の海外生活を体験しましたが、学校現場を拝見する機会を持ってずに帰国しました。今回はなんと小中高合わせて4つの学校に訪問することができ、雰囲気や授業形式、学校施設など日本の学校現場との違いを間近で感じられ、身になる研修となりました。その他に、本別・ミッチェル姉妹都市提携の25周年という大事な節目に携わり、記念式典にも出席できることが楽しみでもありました。生徒が事前研修で必死に練習した『小さな世界』や自己紹介等がミッチェルの方々に受け入れられ、この派遣研修を通してまた一段とミッチェル・本別お互いの絆が強くなった気がしました。この素晴らしい繋がりがいつまでも続くよう、微力ながらも支えていく努力をして参ります。

そして何よりの楽しみはホームステイでした。これは今回の訪問団全員が一番に不安を感じるとともにワクワクしていたことでしょう。研修中唯一生徒に目を配ることのできない時間でしたので心配していましたが、日数が重なるごとにホストファミリーと打ち解けていく生徒を見て「いらぬ心配だったな」と感じました。同時に、温かく生徒を受け入れてくれたホストファミリーにとっても感謝しています。私もホストのオーデン夫妻に出会えたことがとても貴重な思い出となりました。

この派遣事業も、今回で18回目を迎えました。本別町の中高生が大成を収めたこの研修は、今まで姉妹都市交流事業に関わってきた皆様がいるからこそものだと思います。その全ての方々に感謝し、ミッチェル・本別のさらなる発展をサポートしていきたいと思えます。このたびは本当に有難うございました。

百聞は一見に如かず、さらなる飛躍を

団長 佐々木基裕
(町教育委員会教育次長)



オーストラリアの歴史は、今から4万年から6万年前に最初の住民であるアボリジニの先祖がやって来たのが始まりではありますが、オーストラリアは他国から見て想像上の大陸であり、1770年4月にイギリスのキャプテンクック率いる調査隊がシドニー郊外のポタニ湾（現在のシドニー空港辺り）に上陸し、同年8月にイギリス領となったのが国家としての始まりです。国家としての歴史は浅い国でありながら、他国からの移住民が非常に多く、白豪主義の廃止や世界大戦を駆け抜け、現在は多民族・多文化国家として世界に数少ない魅力的な国であります。この魅力ある国のミッチェル市と本別町が国際姉妹都市を結び、今回で第18次を迎えた本別町中学生・高校生派遣団の団長として参加させていただいたことは、私にとっても大変ありがたく見るもの全てが感動の訪問でありました。

今回の訪問団は、3人の高校生と8人の本別・勇足中学生、指導員をお願いした勇足中学校の小島教諭、添乗員と私の14人のメンバーでありましたが、団員たちは5泊6日間のホームステイを通してオーストラリアの文化や生活を肌で感じ、シドニーにおいても歴史等を紐解きながら探索するウォークラリーを体験するなど、大変有意義な研修でありました。学校見学では、ハイスクールやインターナショナルスクールなど4校の学校を視察しましたが、職業観を重視した教育カリキュラムや選択科目の多さには驚きでした。また、本別・ミッチェル姉妹都市提携25周年記念祝賀会にもお招きいただき、一人ひとりのスピーチと手話付き歌「小さな世界」を披露できたことは、団員にとってまたとない貴重な体験でありました。この貴重な体験は、ミッチェル姉妹都市協会のマイク・ゲイル夫妻が中心となつての企画立案と、ホストファミリーの皆さんの心温まるおもてなしによるもので、心から感謝しています。

本研修における私の責務は、団員たちが異国の生活を直接肌で感じ、数多くの体験を通して自己の見聞を広め無事に帰町することでした。団員たちは、英語に多少苦慮しつつも、日を追う毎にホストファミリーに溶け込み、別れ時の涙を見たときは、この研修の素晴らしさを確信しましたし、搭乗機不具合により1日延期となったものの冷静に行動する団員の姿を見て、たくましさも感じられました。

この訪問で大変お世話になった皆さんに感謝申し上げますとともに、参加された団員のさらなる飛躍を期待しています。本当にありがとうございました。



訪問団員からの感想



貴重な経験、大切な思い出

岡本玲奈さん(本別中学校3年)

私は、今回の研修は楽しみというか、不安というか、実感が無いというのがベストなのかもしれません。一度も北海道から出たことがなく、飛行機にも乗ったことがない。そんな私が急に外国に行き、行きだけで3回も飛行機に乗るなんて。東京からシドニーまでの飛行機で眠れる訳がない!!長いと思った飛行機も、9日間の研修も(10日間になりましたが)あっという間に過ぎていきました。ホームステイ先のギャレットさんファミリーは、とてもあたたかみのある方で、私がした質問に対して、まればありますが、日本語で話してください、たくさんのお話をもらいました。少し心配していた英会話もジェスチャー等を通して、通じ合うことができました。

オーストラリアの文化にもたくさん触れることが出来て、大変有意義な時間を過ごすことが出来ました。生きているうちにもう一度、行きたいなと心から思っています。

ホームステイの思い出

久常遥さん(勇足中学校2年)

私の一番の思い出はホームステイです。最初はホストファミリーの方々が何を言っているのか本当にわからず、会話を途切らせてしまうことが多くありました。それで、自信を無くし、ホストファミリーの方々となるべく話さないようにとってしまうこともありました。でも、ホストファミリーの方々がたくさん話しかけてくださったおかげで、だんだん言っていることがわかるようになりました。そこからゲームを一緒にしたり、パズルをしたりして、とても楽しい時間を過ごすことができました。

今回は初めての海外でしたが、ホストファミリーの方々のおかげで、とても楽しく過ごすことができました。帰ってきてすぐは疲れたけれど、また行きたいです。ありがとうございました。

最高の思い出

福田翔子さん(勇足中学校3年)

私は、このミッチェル研修で、最高の思い出をつくることができました。中でも一番の思い出は、ホームステイです。最初の1日目は「仲よくなれるかな?」とか「英語はうまく通じるのだろうか?」など不安なことがたくさんありました。ですが、ホストファミリーの皆さんは、そんな私を温かく迎えてくれました。私は、ホストファミリーの皆さんのおかげで不安は消え、あっという間に楽しいホームステイの5日間は過ぎていきました。

とても短い期間でしたが、伝えようとする気持ちが大切なだと改めて感じることができました。この経験をこれからの学校生活など、色々な場面で生かしていきたいと思えます。そして、いつかもう一度オーストラリアに行ってホストファミリーに感謝の気持ちを伝えたいです。

大切な思い出

山下弓葵乃さん(勇足中学校2年)

私は、今回の訪問をとても楽しむことができました。メルボルンやシドニーの街中の風景、日本ではあまり見ることのない食べ物、違う気候などがとても新鮮でした。ミッチェルに行く前には、基本的に英語で会話をするということを少し不安に思っていたのですが、いざ行ってみるとミッチェルの人やホストファミリーの人達はとても優しく、私のつたない英語でもすぐに理解してくれて、たくさん会話をすることができました。中でも一番楽しかったのは、ホストファミリーにメルボルンの街に連れて行ってもらったことです。広いマーケットの中で買い物をしたり、街の中を歩いてレストランに行ったり、たくさんお話をしたり、その一つひとつがとても大切な思い出です。

私は、今回の体験で、たくさん大切な思い出をつくることができました。今度はもっと英会話ができるようになってから行ってみたいと思いました。本当にありがとうございました。

感謝がありません

本寺彩未さん(本別高校1年)

ホストファミリーと過ごした5日間は、私にとって一生忘れない思い出になりました。ホームステイ先では思うように言葉が伝わらなかったり、積極的に話すことはできませんでしたが、ホストファミリーの方々の優しさに助けをもらい、たくさん思い出をつくることができました。ディモック・パプワーファミリーに出会えてとても幸せです。また機会があればオーストラリアに行きたいです。

人の優しさにふれ合う

林彩奈さん(勇足中学校2年)

私は、今回の研修で人の優しさにふれ合うことができました。私は、オーストラリアに行く前にたくさん不安がありました。「英語でちゃんと会話ができるのかどうか」「ホストファミリーとは上手く生活できるのかどうか」「料理はどうか」など、数えれば数えきれないほどありました。でもオーストラリアの人は本当に優しく、英語での会話も動作をつけてくれたり、ホームステイでも美味しい料理をだしてくれたり、楽しく過ごすことができました。

このような貴重な経験をさせていただき、私はとても恵まれていると思えます。本当にありがとうございました。

忘れられない思い出

田中琉々さん(本別中学校2年)

私は、今回の研修で楽しい思い出をたくさんつくることができました。私の一番の思い出はホームステイです。最初はとても緊張していましたが、ホストファミリーが温かく迎えてくれたので5日間とても楽しく過ごすことができました。ホームステイ4日目には、家から少し遠い「グレートオーシャンロード」というとても美しく、きれいな海に連れて行ってもらいました。海につくまでの間には、本別町やオーストラリアについて、たくさんのお話ができて楽しかったです。また、日本では見られない野生のコアラやカンガルー、エミュー、ワラビーなどを見ることができ、とても良い経験になりました。

今回のすばらしい体験を日々の生活にも生かしていき、もっともっと英語を勉強して、またオーストラリアに行きたいです。

心に残った9日間

中野美穂さん(本別高校2年)

私は、今回たくさんのお話を学びました。英語は苦手な方でした。でも完璧な英語を使おうとするのではなく、伝えたい事を簡単な単語を使って勇気を出して言えば伝わる事が分かりました。

ホストファミリーはもちろん、オーストラリアの方々はみんな優しく良い人達でした。ホームステイ先に8歳と5歳の男の子がいて、一緒にレゴブロックをしたり、お出かけの時は必ず走って来て手を繋いでくれたりしました。弟ができたみたいでお別れは本当に辛かったです。英語をもっと勉強していつかまたオーストラリアに行きたいです。このような経験ができ、本当に良かったです。ありがとうございました。

素晴らしい経験に感謝

木下あいかさん(本別中学校2年)

私は、今回、初めて海外へ行きました。北海道を離れたことがなかったので、飛行機、東京など、目に映るもの全てに感動してしまいました。そして、ついに着いたオーストラリア。1日のうちに歓迎会、学校見学、ショッピング等、毎日のスケジュールが本当に豪華で、むしろ私としては、もっとゆとり余裕がほしかったくらいです。街の雰囲気から食文化まで日本とはガラリと違い、とても興味深く感じました。

夢のように過ぎてしまった海外研修。それでもオーストラリアの地で呼吸をした7日間は私にとって、一生の財産です。そして、これが最初で最後の海外とならぬよう、更に語学力を磨き、頑張っていこうと思えます。貴重な経験をありがとうございました。

オーストラリアで学んだ事

石上晴康さん(勇足中学校3年)

僕は、今回の研修で色々オーストラリアの文化や生活について学ぶ事ができました。特にホームステイでは家の形や食事、外の風景等で本当にオーストラリアに来た事を感じました。また、ホストファミリーの皆さんは、とても優しく、毎日楽しく過ごすことができました。また、わからない英語は教えてくれましたし、オーストラリアの文化についても色々教えてくれました。

今回の研修で、今まで以上にオーストラリアについてよく分かりました。またホストファミリーの皆さんに会いたいです。今回の研修はとても楽しかったです。

一生忘れない思い出

佐藤菜々子さん(本別高校2年)

私は、今回の海外研修で海外へ行くのは二度目でした。一度海外研修を経験していたこともあり、不安などもなく出発することができました。オーストラリアにつくと日本とは全く違う景色が広がり、期待で胸がいっぱいになりました。ミッチェルに着くと、ホストファミリーが温かく迎え入れてくれ、とても安心しました。はじめは、うまく自分の言いたいことが伝わらなかったり、ファミリーの言っていることが分からなかったりしましたが、無事ホームステイを終えることができました。

今回の研修で初めて会った仲間たちとも、たくさん交流することができ、とても良い経験になりました。この研修に関わった全ての皆さんへの感謝を忘れず、この経験をこれからの将来に生かしていきたいと思えます。

本別町の児童・生徒の 学力・生活の実態は！

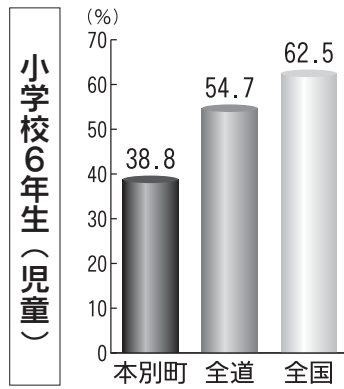
平成28年4月19日に全国の小学校6年生と中学校3年生を対象に、国語・算数(数学)の学力と学習状況調査が実施されました。平成18年を皮切りに、今年度で10回目となるこの調査は、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析すること、日本の教育水準の維持向上の観点から教育施策の検証と改善を目的に毎年実施しています。本町の全小中学校においてもこの調査に毎年参加しており、各校において調査結果を詳細に分析し、学力向上推進プランを活用しつつ、授業改善や家庭学習の取り組み、道徳教育の充実などを中心に自校の学力向上に向けた取り組みを行っています。

これまでは、保護者に対して結果を公表してきましたが、今年度より、地域や保護者の皆さんに学校運営に参画していただくコミュニケーション・スクールの構築を進めていくことから、住民の皆さんにも今回の調査結果について周知し、今後もさまざまなご協力・ご支援をいただきたく、調査結果についてお知らせします。

学習状況調査

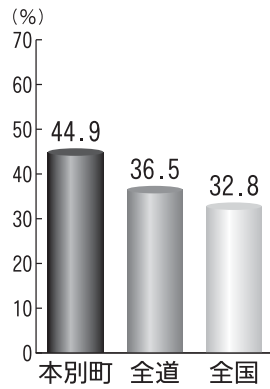
④ 学習習慣

1日1時間以上勉強している



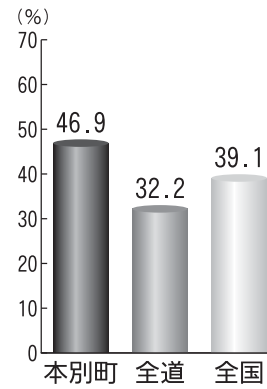
③ 生活習慣

1日3時間以上、テレビ、DVDなどを見ている



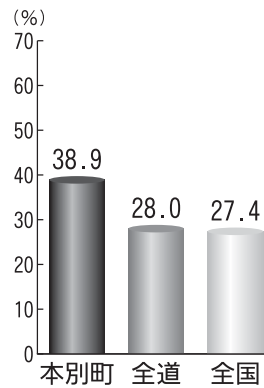
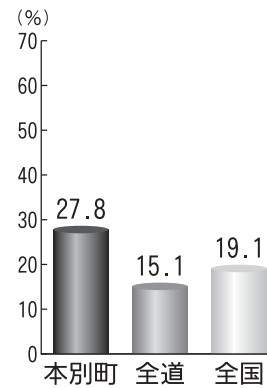
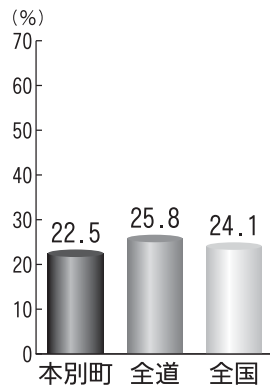
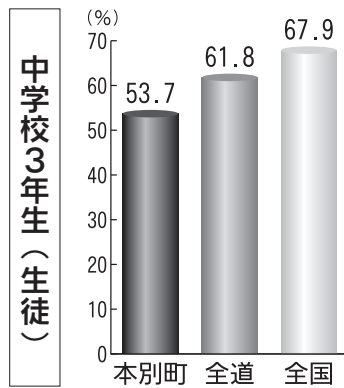
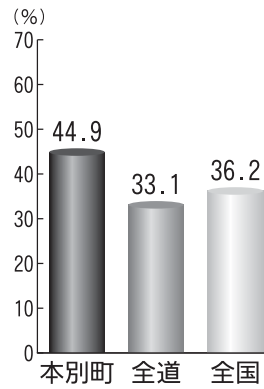
② 地域への関わり

今、住んでいる地域の行事に参加している



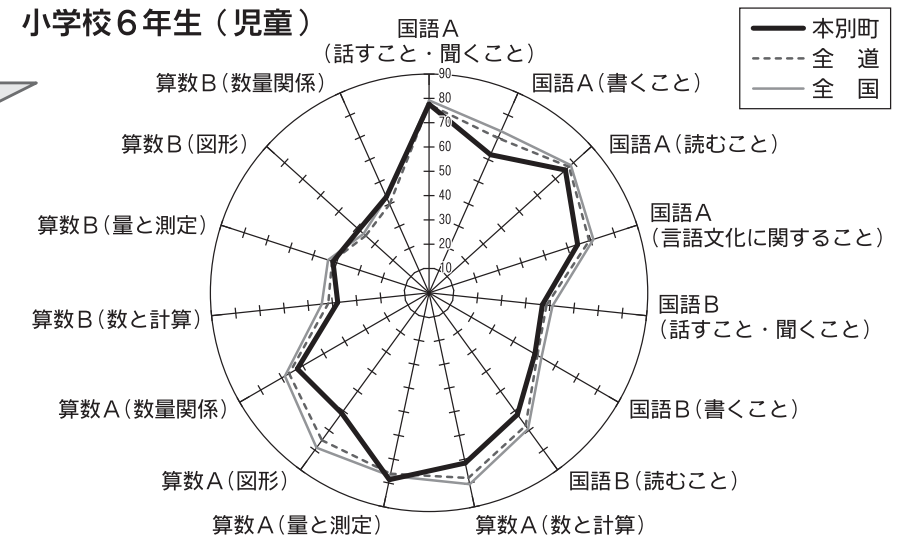
① 自尊意識

自分には良いところがあると思う



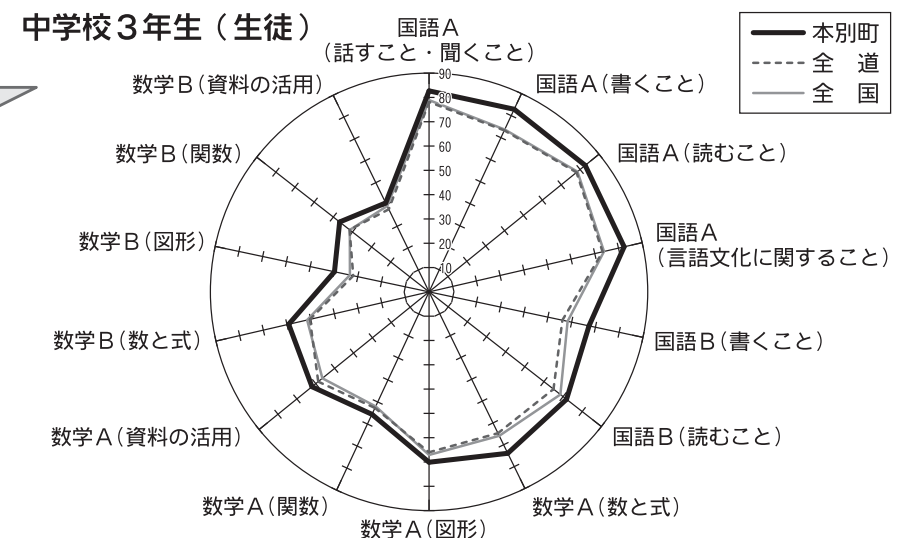
学力調査～国語、算数(数学)

小学校6年生(児童)



分析 小学校の国語Aでは、全体で全国を下回っていますが、「話すこと・聞くこと」の領域が全道を上回っています。ローマ字を書くことなどに課題があります。算数Aでは、「量と測定」が全道を上回り、算数Bでは「図形」「数量関係」が全国を上回っています。算数Aの「数と計算」「図形」に課題があります。

中学校3年生(生徒)



分析 中学校では、国語A B分野・数学A B分野の全ての教科で、全道・全国を上回っています。確実に基礎基本の定着が図られてきています。ただし、数学などの設問の中には、全体の正答率が全国より低いものや、無回答のものもあり、今後の指導上の課題があります。

※教科の各領域の正答率を全道・全国の正答率と比較。単位は%で表示

分析

1日1時間以上勉強する小学生は、全国に比べると半分程度ですが、中学生については、全国を下回っているものの、家庭学習の時間は小学生よりも中学生の方が増えていることがうかがえます。

分析

1日3時間以上テレビなど見ている小学生は、全国に比べると多く、反面、中学生は、全国に比べると少なくなっています。

分析

住んでいる地域の行事に参加していると答えている小学生は全国を上回っています。中学生も全国より高い数字ですが、中学生全体の比率は下がっています。

分析

自分には良いところがあると答えている小学生が、全国を大きく上回っており、自尊心の高い児童生徒が増えていることがうかがえます。

本別町の学力向上策

- ◆ 学力向上推進プランの作成・活用
- ◆ 幼保・小・中・高連携教育の推進
- ◆ ICT機器の導入・ICT教育の推進
- ◆ 家庭学習の充実・定着への啓発

学校の取り組み

全ての学校で、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導を実践しています。自尊心を高めたり、公共心を育てる道徳の授業にも力を入れています。そのために、落ち着いた環境で授業を受け、家庭学習も着実に進められ、確実に生徒一人ひとりに基礎基本が身につけてきています。しかし、教科の領域で正答率が低いものや無回答のものもあり、各校で学力向上推進プランを中心に、授業の工夫改善や個別指導を充実させ、学力向上に向けた取り組みを進めています。

問い合わせ

教育委員会 ☎22-2331

平成27年度版

わがマチ マイタウン本別

のだいどころ

このように使われました!

平成27年度の各会計の決算状況がまとまりました。皆さんから納めて頂いた大切な税金や国・道からのお金などが、どのように入ってきて(歳入)、どのように使われたか(歳出)、また、今の本別町には財産や預金、借入金がどれくらいあるのかを、表や豆グラフを使ってできるだけわかりやすくお知らせしたいと思います。

一般会計の決算状況

「借入金」は、元々「今頃は、みんなと一緒にマシの自所事務」で「歳入」の「借入金」から「歳出」の「借入金」へ移動するものです。

依存財源：国や道の決定や割り当てに基づいて入ってくるお金のこと。地方交付税や国庫支出金・道支出金のほか、地方譲与税、各種交付金、また、地方債(町債)もこれに該当します。
自主財源：町税など皆さんに納めていただくお金のことで、他に分担金および負担金、使用料および手数料、寄付金、繰越金等があります。財政の自主性と安定性を確保する上では、自主財源の割合ができるだけ高いことが望ましいです。

民生費 9億4,811万円

1人当たり 12万8,749円

14.2%

児童や高齢者福祉の推進、社会福祉充実のために使われるお金です

衛生費 9億2,512万円

1人当たり 12万5,628円

13.9%

保健事業やゴミ処理など、健康と衛生的な環境を維持するために使われるお金です

土木費 7億6,532万円

1人当たり 10万3,927円

11.5%

道路の改良や維持、公営住宅の建設や管理などに使われるお金です

総務費 7億1,511万円

1人当たり 9万5,262円

10.5%

町の企画や防災、造成、選挙、庁舎の維持管理、放送・通信の整備などに使われるお金です

公債費 6億9,960万円

1人当たり 9万5,003円

10.5%

事業を行うために借りたお金の返済に使われるお金です

教育費 3億9,972万円

1人当たり 5万4,280円

6.0%

小学校・中学校での教育や社会教育(学校教育以外の教育)などに使われるお金です

消防費 3億3,510万円

1人当たり 4万5,505円

5.0%

池北三町行政事務組合への負担金に使われるお金です

商工費 2億9,633万円

1人当たり 4万2,400円

4.4%

商工業の発展・振興などに使われるお金です

農林水産業費 2億4,517万円

1人当たり 3万3,293円

3.7%

農業・林業の発展のために使われるお金で、農林道の整備、農業用施設・機械購入などに使われるお金です

その他 7,609万円

1人当たり 1万3,333円

1.1%

議会の運営、勤労者対策、災害復旧などに使われるお金です

職員費 12億7,879万円

1人当たり 17万3,654円

19.2%

職員の給料などに使われるお金です

歳出
総額 **66億7,086万円**
町民1人当たり 90万5,874円

歳入
総額 **67億8,500万円**
町民1人当たり 92万1,374円

町民1人当たりは、平成28年3月末人口7,364人で算出しております。

47.5% 地方交付税 32億1,943万円
1人当たり 43万7,185円
11ページに掲載しています

12.6% 国・道支出金 8億5,489万円
1人当たり 11万6,090円
国や道から入ってくる使い道の決まっているお金です

9.2% 町債 6億2,321万円
1人当たり 8万4,629円
町が事業を行うために借り入れたお金で、いわゆる借金のことです

2.1% 地方譲与税 1億4,308万円
1人当たり 1万9,430円
自動車重量税など、徴収の利便性から一旦国税として徴収された後、市町村に一定の基準により譲与される税です

2.8% その他 1億9,294万円
1人当たり 2万6,200円
交通安全対策特別交付金や地方消費税交付金など、国や道から交付されるお金です

13.3% 町税 9億1,599万円
1人当たり 12万2,432円
町民の皆さんに納めて頂いた税金のうち、直接、町に入る税金で、町民税・固定資産税などです

3.6% 諸収入 2億4,111万円
1人当たり 3万2,742円
貸付金元利収入や介護保険収入、貯金利子などのお金です

3.1% 繰入金 2億7,511万円
1人当たり 2万8,179円
貯金(基金)を取り崩したお金です

2.4% 繰越金 1億6,402万円
1人当たり 2万2,273円
前年度に残ったお金です

1.8% 使用料および手数料 1億2,139万円
1人当たり 1万6,484円
公共施設の使用料や役場で発行する証明書類の発行手数料などです

0.8% 分担金および負担金 5,812万円
1人当たり 7,893円
農家の人が納める土地改良などの受益者分担金、老人ホーム入所負担金や保育料などです

0.8% 寄付金および財産収入 5,771万円
1人当たり 7,837円
町民の皆さんから頂いた寄付金や、財産運用(土地の貸し付けなど)などによるお金です

依存財源
50億3,355万円
74.2%

自主財源
17億5,145万円
25.8%

豆のマチほんべつだから(豆さやグラフ)

地方交付税

地方交付税は、国から交付される町の大きな収入源となっています

地方交付税は、法に基づき交付されるものです。うち普通交付税が、右のトラ豆グラフの通り町の重要な収入になっています。

- さて、普通交付税がどのように計算されるかという点、
 - 全国的に標準となる町のモデルを作る
 - このモデルの必要な経費を計算する
 - 本町分は、このモデルの経費を補正して計算する
 - 算出された経費総額から本町の収入を差し引く
- このように計算したものが、町の普通交付税収入です。

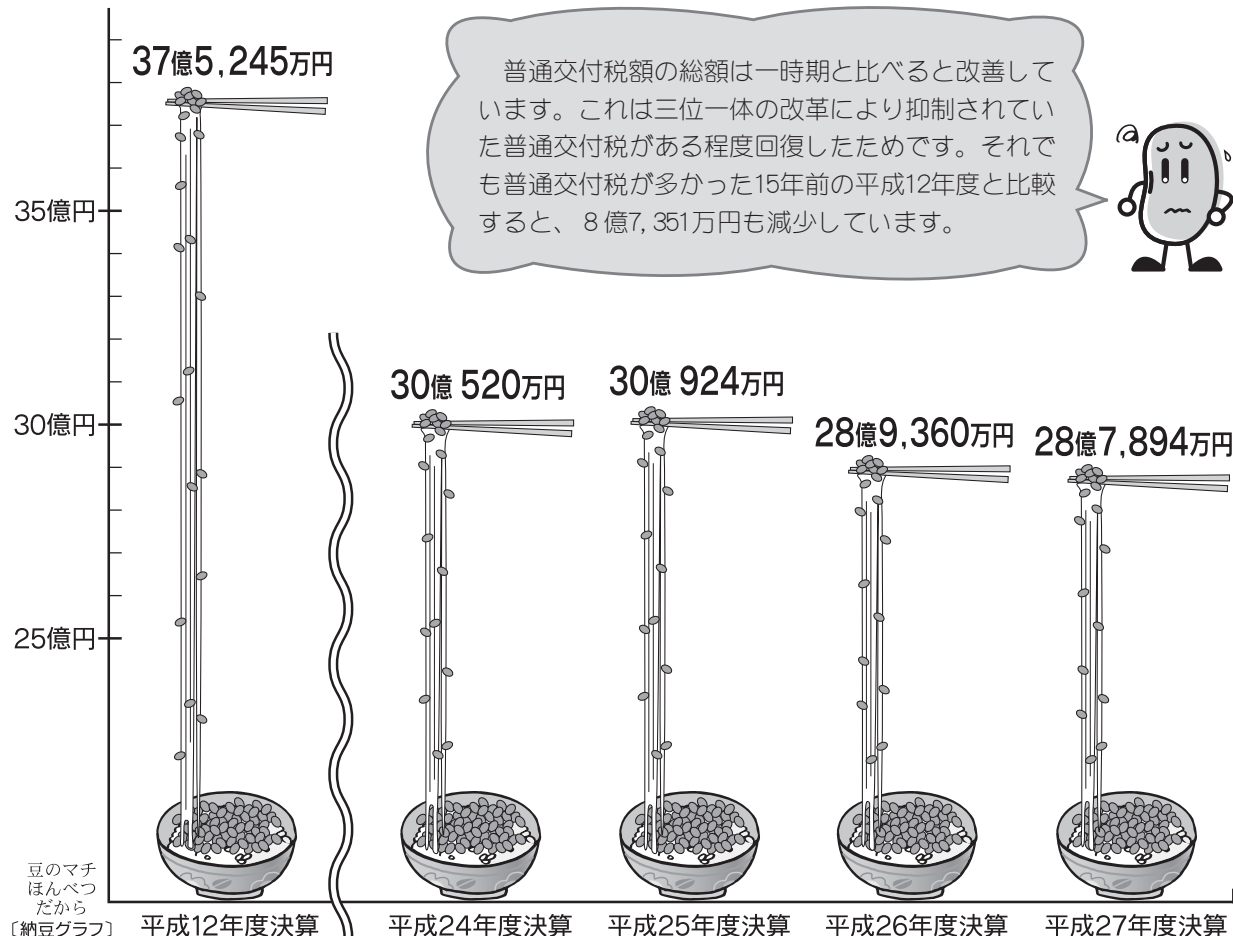
地方交付税には2種類あります

地方交付税には、普通交付税と、特別交付税があります。大きなものが普通交付税で、特別交付税は、災害があった時など特殊な事情に対して交付されます。

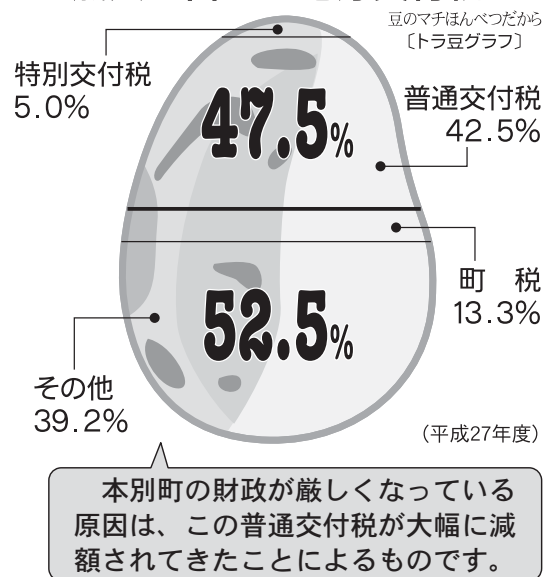
国の財政事情や政策が普通交付税に反映

普通交付税は、国税（所得税・酒税・法人税・消費税・たばこ税）収入の一定割合により交付されますが、景気の落ち込みによる税収不足により、国債の発行など、その他の財源も使って交付されています。従って、国の財政事情や政策が普通交付税交付額に大きく反映されます。

普通交付税の推移

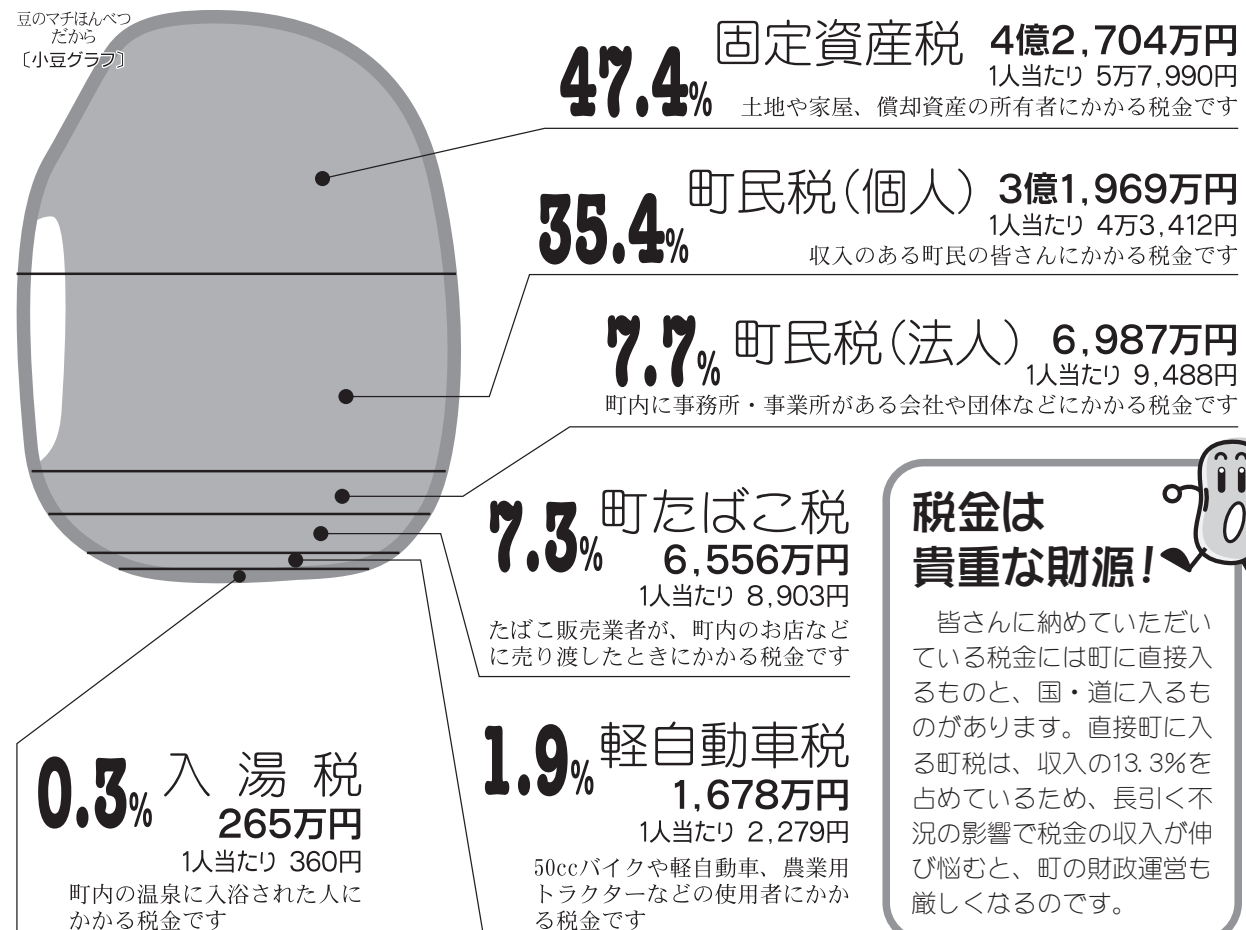


歳入に占める地方交付税



町税の内訳

総額 9億159万円
町民1人当たり 12万2,432円



税金は貴重な財源!

皆さんに納めていただいている税金には町に直接入るものと、国・道に入るものがあります。直接町に入る町税は、収入の13.3%を占めているため、長引く不況の影響で税金の収入が伸び悩むと、町の財政運営も厳しくなるのです。

一般会計の財産 および預金等の状況

町にも預金があるんです

町も皆さんの家庭と同じように、余裕のあるときには預金を積み立てて、大きな事業を行うときにやりくりが苦しくならないようにしています。

財産の状況

公有財産土地	1,548ha
公有財産建物	10万5,281㎡
山林	1,300ha
有価証券および出資金	7,485万円
車両	62台

豆辞典

財政調整基金：
町の財源を調整するための預金

減債基金：
借入金の返済に充てるための預金

預金(基金)等の状況

基金等の種別および目的		平成27年度末現在高
積立基金	財政調整基金	15億9,592万円
	減債基金	5億8,472万円
	福祉の充実	2億7,344万円
	産業の振興	1億8,449万円
	教育・文化・スポーツの振興	1億3,082万円
特定目的基金	その他	7億5,978万円
	定額運用基金	2億1,036万円
その他	8,123万円	
合計	計	38億2,076万円

平成27年度主な事業 ～一般会計分～



地域資源を生かした
豊かなまちづくり

農業基盤整備促進事業 (明渠排水整備)	事業費 6億8,634万円
補助金 52.3%	借入金 42.5%
一般財源 5.2%	

快適でやさしさのある
まちづくり



栄町公営住宅建替事業	事業費 1億1,270万円
補助金 45.9%	借入金 46.2%
一般財源 7.9%	
橋りょう長寿命化事業	事業費 4,291万円
補助金 64.4%	借入金 33.1%
一般財源 2.5%	
住宅リフォーム助成事業	事業費 2,190万円
交付金 63.9%	一般財源 36.1%

「ともに学び支えあい 活力のあるまちづくり」を目標として

町では、まちづくりの長期計画として、第6次総合計画（平成23年度～平成32年度）を定め、分野項目に分類して各種事業を実施しています。



生涯を通じて学び
豊かな心を育むまちづくり

町民水泳プール改修	事業費 2,214万円
スポーツ振興くじ 53.4%	借入金 46.5%
一般財源 0.1%	
スクールバス購入	事業費 815万円
補助金 38.1%	借入金 49.1%
一般財源 12.8%	

ともに支えあい安心・安全に
暮らせるまちづくり



消防用動力ポンプ付水槽車購入	事業費 4,650万円
借入金 93.1%	一般財源 6.9%

特別会計・企業会計の決算状況

企業会計

		歳入	歳出
国民健康保険 病院事業会計	収益的収支	11億6,197万円	12億3,869万円
	資本的収支	1億3,109万円	1億5,777万円
水道事業会計	収益的収支	1億5,843万円	1億5,491万円
	資本的収支	8,680万円	1億4,378万円

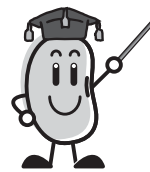
特別会計

	歳入	歳出
国民健康保険特別会計	14億2,276万円	13億4,889万円
後期高齢者医療特別会計	1億1,646万円	1億1,646万円
介護保険事業特別会計	9億6,022万円	9億3,802万円
介護サービス事業特別会計	2億7,356万円	2億6,774万円
簡易水道特別会計	1億2,694万円	1億2,507万円
公共下水道特別会計	4億9,374万円	4億9,071万円

町では事業を効率よく運営していくために、大きく3つの財布（会計）に分けています。一般会計は、町政を運営するための中心的な経理をするための財布、特別会計は特定の収入・支出を他のものと区別して経理するための財布、企業会計は、一般会計・特別会計とは全く違い、独立採算制を基本としており、民間の会社のような会計になっています。

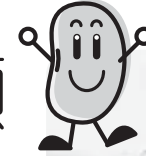


会計がなぜ3つあるの？



一般財源：何にでも使えるお金で、例えば町税・地方交付税などです
収益的収支：経営活動に伴い発生（予定含む）するすべての収益と費用のことです
資本的収支：将来の事業活動に備えて行う建設改良および建設改良にかかる企業債償還金などの支出とその財源となる収入のことです

一般会計の借入額



借入金（町債）の状況

借入の目的	平成27年度借入額
道路新設改良舗装	2,590万円
車両購入(スクールバス・ポンプ付水槽車)	4,730万円
公営住宅建設	5,200万円
農業基盤整備等	680万円
プール改修	1,030万円
医療機械器具の購入	3,520万円
橋梁長寿命化事業	1,420万円
営農用水事業	2,000万円
し尿処理施設整備	90万円
過疎地域自立促進特別事業	8,180万円
臨時財政対策債	2億2,831万円
合計	5億2,271万円

※臨時財政対策債とは～地方交付税の代わりとして発行される地方債で、将来は地方交付税で償還額が充当される



消防用動力ポンプ付水槽車

なぜ借入金（町債）をするの？



町で行う大きな事業には、国からの同意を受けてお金を借りるものがあります。当然その年度の収入だけでは足りないから借りるのですが、また違った意味もあるのです。皆さんが納めた税金などを使って10年、20年かけて借入金を返済していくことにより、長く使われる施設は、「使用する世代みんなで負担しよう」という意味もあるのです。

そして、返済金の一部を国が負担してくれる有利な借入れを選択したり、以前に借りた利率の高いものを現在の利率の低いものに借り換えたりして、町の負担が少しでも小さくなるようにやり繰りをしているんですよ。



栄町公営住宅

マチの借入金現在高 (平成27年度末)

総額 119億9,307万円

町民1人当たり 162万8,608円

	内 訳	金 額	町民1人当たり	
一 般 会 計	道路新設改良舗装	6億7,454万円	9万1,600円	
	農林道および農業基盤整備	2億6,774万円	3万6,358円	
	公営住宅建設および改良	7億9,978万円	10万8,607円	
	学校建設および改築	4億9,435万円	6万7,130円	
	災害復旧	1,236万円	1,678円	
	臨時財政対策債	28億2,340万円	38万3,406円	
	その他	14億7,456万円	20万239円	
	小 計	65億4,673万円	88万9,018円	
	特 別 会 計・企 業 会 計	病院事業	10億5,433万円	14万3,174円
		簡易水道	6億1,095万円	8万2,964円
公共下水道		28億7,583万円	39万526円	
上水道		9億523万円	12万2,926円	
小 計	54億4,634万円	73万9,590円		
【参考】債務負担行為(一般会計)		2億2,859万円	3万1,041円	

借入金って、あとどれくらい残っているの？



特定の収入で運営される特別会計や企業会計を除く、平成27年度末の現在高は65億4,673万円です。町民1人あたり約89万円となっています。

地方交付税などの収入が大きく落ち込んでいることから、いっそうの経費節減などを実施して今後の返済計画を立てています。

※債務負担行為とは～1つの事業が単年度で終了せず、翌年度以降も支出が必要なもの

第5次行財政改革大綱を策定

新しい成長を目指し、行財政改革に取り組んでいきます

町は、時代を見据えた行政の再構築と住民自治の推進を図る「第5次行財政改革大綱」を11月に策定しました。計画期間は平成28年度から平成32年度の5年間です。

この改革の役割

本町の総合的な指針である「第6次総合計画」で目指す町の将来像「ともに学び支えあい 活力あるまちづくり」をはじめとする本町の諸計画における、多様化する行政ニーズや新たな課題への対応、行政運営の改善について、その重要性を踏まえた上で、短期的に効果を生み出す取り組みだけではなく、10年、20年先の将来に効果が現れる取り組みとして、次世代への道筋を着実に作るために下支えをする計画です。

これまでの行財政改革

本町では、平成11年に「本別町行政改革大綱」を策定して以降、4次にわたり計画を策定し、行財政改革に取り

組んできました。

大綱と、具体的な推進計画を着実に実行してきたことにより、町民ニーズの多様化や各施策による制度改正が頻繁に行われ、さらに、町民生活における安心・安全の確保や子育て支援の充実を図る一方で、平成28年度当初における職員数（病院を除く）は、平成15年度の214人と比較すると39人少ない175人、また、町債残高についても平成15年度末の91億7千5百万円から平成27年度末には65億4千7百万円になり、財政基盤の安定化を図ってきました。

第5次大綱策定の流れ

大綱と具体的な取り組み項目を掲げた推進計画は、町長を本部長とする庁内会議の「本別町行政改革推進本部会議」において、第4次行財政改革の成果と課題を検証した上で、原案を策定し、町民の代表からなる「本別町行政改革推進委員会」に諮問しました。



第5次行財政改革の

目指す姿

財政の健全化や役所のスリム化といったこれまでの行財政改革に加え、本別町の魅力向上を目指すまちづくりを進

本別町行政改革推進委員会

(敬称略)

会長
今野 公司 (一般公募)

職務代理者
沼田 久枝 (一般公募)

委員 (順不同)
佐野 政利 (本別町農業協同組合)
佐藤 公昭 (本別町商工会)

中山 博志 (本別町自治会連合会)

小原 広昭 (連合北海道本別地区連合)

石山 憲司 (本別町社会福祉協議会)

田西 昭子 (本別町市街地婦人会)

菅原 道正 (本別町文化協会)

我妻 勇次 (本別町体育協会)

内田 勇介 (一般公募)

平田 峻太 (一般公募)

【委嘱期間】

平成26年12月17日から

平成29年12月16日まで

具体的には次の項目を 推進していきます

1. 組織体制の強化に資するもの
 - ① 組織機構の改革と定員管理の適正化
 - ② 給与等の適正化
 - ③ 人材の育成等
 - ④ 電子自治体の推進
2. 持続可能な財政の確立に資するもの
 - ① 事務事業の再編・整理・廃止・統合
 - ② 経費削減等の財政効果
 - ③ 公共管理運営等の合理化等の推進
 - ④ 広域行政の推進
3. 多様な主体との協働に資するもの
 - ① 民間委託等の推進 (新しい公共・指定管理者制度の活用)
 - ② 地域協議の推進
 - ③ 公正・透明な行政の推進

※第5次本別町行政改革大綱と第5次本別町行政改革推進計画は、町のホームページに掲載いたします。

町は、時代を見据えた行政の再構築と住民自治の推進を図る「第5次行財政改革大綱」を11月に策定しました。計画期間は平成28年度から平成32年度の5年間です。

組んできました。大綱と、具体的な推進計画を着実に実行してきたことにより、町民ニーズの多様化や各施策による制度改正が頻繁に行われ、さらに、町民生活における安心・安全の確保や子育て支援の充実を図る一方で、平成28年度当初における職員数（病院を除く）は、平成15年度の214人と比較すると39人少ない175人、また、町債残高についても平成15年度末の91億7千5百万円から平成27年度末には65億4千7百万円になり、財政基盤の安定化を図ってきました。



取り組みの柱

これまでの行財政改革の実績や本町の現状・課題等を整理した上で、基本理念を実現するために、3本の改革の柱を定めました。

1. 組織体制の強化

業務の増大や多様化する住民ニーズに素早く、的確に対応できる効率的な組織体制の実現と人材の育成を図ります。

2. 持続可能な財政の確立

将来に向けて安定した財政運営を行うため、歳出構造の見直し、財源の確保、施設の効率的な運営を図ります。

3. 多様な主体との協働

地域における住民、NPO、企業等の民間団体による活動形態が多様化・高度化し公共的価値を含む領域が広がっています。このような潮流をさらに進め、各主体による地域経営や地域課題解決のシステム構築に向け、環境整備を行います。

推進方策

総合計画をはじめとする本町の諸計画を確実に実行するための行財政改革推進に当たっては、庁内組織の行財政改革推進本部を中心に情報の共有化を図り、庁内で横断的に連携を取りながら改革に取り組むとともに、PDCAサイクル(※2)を取り入れた進捗管理を行います。

さらに、行政改革推進委員会に諮り、推進計画の取り組み状況について評価・検証していただきます。

※2 PDCAサイクル

業務を行ううえでPlan(計画)→Do(実行)→Check(点検)→Act(改善)の4段階を順次行って一周したら、再び次のPDCAサイクルにつなげ、螺旋を描くように一周ごとに質を向上させて、継続的に業務改善すること。

問い合わせ

企画振興課

行政改革担当

022-8121



5月 トマト苗の定植



8月 草取り



加工のために運ばれた
606kgのトマト



トマトをカット



ジュースの瓶詰作業

農福商連携事業「農作物栽培実証実験」

「働くことができる」を実証

5月にスタートした農福商連携事業「農作物栽培実証実験」による加工用トマト・カリートマト栽培と商品化に向けた加工作业が9月に完了しました。これらの一連の作業を終え、農福商連携推進会議（新津和也会長）において、個々に合った支援を行うことで、障がいのある人も、農業分野で「働くことができる」と実証しました。



8月 収穫



煮込み作業

商品化と販路の確立を

目指します

この実証実験は今年度、町からNPO法人ほんべつフリーライフ（三井誠子代表理事）に委託され、町内2件の農業者の協力のもと、障がいのある人たちの新たな就労の場確保に向けて実施されたものです。5月から9月末までに計36日、同法人ほんべつつじの園（新津和也施設長）の利用者なども加わりながら、13人でトマトの脇芽取りや草取り、収穫作業などに汗を流してきました。収

獲量は、加工用トマトが606kg、カリートマト3種が94kgです。今年度収穫したトマトは、カットや煮込み、裏ごしなどの調理で、長期保存可能な「トマトピューレ」「トマトジュース」に加工されました。このピューレは、12月3日に中央公民館で開催される障がい者週間記念事業・ほんべつ学びの日フェスティバル「ともに！」において、「トマトカレー」として提供されます。今後は、これらの加工品を飲食店などで継続的にご利用いただけるよう改良を重ね、商品化に向けた取り組みを展開していきます。

「ともに！」で実証の 成果を発表します

この事業に携わったフリーライフ・つじの園の利用者と、アドバイザーであるジョブコーチが「ともに！」のステージでこの実証実験の成果を発表します。トマト栽培から収穫、調理、完成までの苦労や喜びの思いと、いきいきとした皆さんの表情をどうぞご覧ください。

発表時間 午後1時！

創作劇「私の同僚」にも ご注目ください

成果発表に引き続き、「ともに！」のステージでは、障がいのある人の就労や障がい者差別解消法による合理的配慮のあり方を伝える創作劇「私の同僚」を上演します。老人ホームを舞台に、自閉症の人が多くの助けを受けながら仕事に携わっていくフィクションの物語です。町内の福祉事業所で働く5人が、未来の本別町への願いを込めて熱演します。



試作として完成した
ピューレとジュース



トマトピューレが入った
「トマトカレー」



事業に携わったフリーライフ、
つじの園利用者の皆さん



創作劇の監督と出演者

障がい者週間記念事業・
ほんべつ学びの日フェスティバル
「ともに！」のイベント詳細は、
次ページへ

昨年のオープニングの様子



平成28年度 障がい者週間記念事業・ほんべつ学びの日フェスティバル

共通テーマ「ともに、」を開催します
 ～共に感じ、共に考え、共に学び、共に築き、共に歩もう。共にこの輪が広がるように～

今年で共同開催2年目となる、障がい者週間記念事業とほんべつ学びの日フェスティバルを行います。このイベントは、さまざまな体験や発表を通じて学びの輪を広げるとともに、障がい者福祉への理解を深める目的で企画しました。小さなお子さんから大人まで誰もが楽しめるプログラムとなっていますので、多くの皆様のご来場をお待ちしています。

とき **12月3日(土) 午前9時30分～午後3時**
 ところ **中央公民館**

主催 障がい者週間記念事業・学びの日フェスティバル実行委員会
 (チャレンジド・ネットワークほんべつ、教育委員会)

◆タイムスケジュール

- 午前の部**
- ★オープニングイベント 本別中学校吹奏楽部演奏
 - ★開会式・啓発セレモニー
 - ★みんなのがんばり発表会1
 - ★中学生意見発表
 - ★「ランドセルに込めた願い」 本別中学校2年 木下あいかさん
 - ★「受け入れる大切さ」 勇足中学校2年 林 彩奈さん
 - ★中高生オーストラリア・ミッチェル訪問団報告会
- 午後の部**
- ★みんなのがんばり発表会2
 - ★農福商連携事業成果発表
 - ★障がい者団体活動報告
 - ★身体障がい者福祉協会本別町分会
 - ★そらの会(こころを育てる親の会)
 - ★創作劇「私と同僚」

問い合わせ

- 本別町社会福祉協議会 ☎22-8320
- 総合ケアセンター 障がい者福祉担当 ☎22-8520
- 中央公民館 ☎22-5111

- ◆体験コーナー**
- 午前11時～午後2時
 - ・おもしろかんたん工作
 - 午前11時～正午
 - ・軽スポーツ(ディスクン)
 - 午後0時30分～午後2時
 - ・こどもお茶会
 - 午後2時～午後2時30分
 - ・アイヌ語ジャンボカルタ大会

- ◆展示・販売コーナー**
- 午前9時30分～午後3時
 - ・社会教育事業写真展示
 - ・本別高校紹介パネル展
 - ・高校生POP展
 - ・学校行事紹介パネル展
 - ・福祉用具の展示・販売
 - ・福祉団体・事業所の展示・販売

◆フードコーナー 提供時間 午前10時30分～午後3時
 ※売り切れ次第終了となります

メニュー	料金	出店者
フランクフルト	200円	ラムピリカ
クレープ・から揚げ	各200円	そらの会
ソフトドリンク	100円～	フリーライフ
コーヒー・紅茶 (テイクアウトカップ)	各150円	図書館ボランティアぶっくる
わたあめ・ポップコーン	無料	ボランティアクラブかめ
カレー・トマトカレー (午前11時30分～午後1時)	200円	チャレンジド・ネットワークほんべつ

創作劇「私と同僚」 ～障がい者と共に働くために～
 職場で一緒に仕事をすると同僚が不思議な行動を…「あれ?」「どうして?」「見た目のかわからない?」「どうしてなの?」
 劇を見ながら、みんなで一緒に考えてみませんか!

国民年金

国民年金保険料の納め忘れがある人は、過去5年分まで納めることができます

後納制度を利用するメリット

- ・未納期間の保険料を納めることで、年金を受け取るために必要な資格を得られる可能性があります
- ・将来受け取る年金額が増加します。1か月分保険料を納めることに、65歳以降に受け取れる年金が年額で約1625円増額します

後納制度を利用できる人

- ① 20歳以上60歳未満で、5年以内に年金保険料の納め忘れの期間や未加入期間がある人
- ② 60歳以上65歳未満で、①の期間の他に任意加入中の期間に納め忘れがある人
- ③ 65歳以上の人で、老齢年金の受給資格がなく任意加入中の人

※60歳以上で、老齢基礎年金を受け取っている人は申し込みできません

その176

注意事項

・後納制度を利用できるのは、平成30年9月までです
 ・平成25年度以前の後納保険料には、当時の保険料額に加算額が付き
 ・後納が可能な期間のうち、最も古い分から納めていただきます

【参考】平成29年3月までの後納保険料額(月額)

	後納保険料額	当時の保険料への加算額
平成23年度	15,740円	720円
平成24年度	15,430円	450円
平成25年度	15,250円	210円
平成26年度	15,250円	加算なし

後納制度についての問い合わせ
 日本年金機構『国民年金保険料専用ダイヤル』
 ☎0570-0111-0500
 (IP電話・PHS電話は、03-6731-2015)
 申し込み先
 帯広年金事務所
 ☎0155-6515003

※申し込みや問い合わせをするときは、年金手帳など基礎年金番号がわかるものをご用意ください

詳しくは
住民課 戸籍年金担当
 ☎22-8128

平成28年度本別町文化祭

東日本大震災復興支援
ほんへつ学びの日「夢風」事業

子どもから大人までが日ごろの文化活動の成果を披露する平成28年度本別町文化祭（町教育委員会・町文化協会主催）が11月1日から3日までの3日間、中央公民館を主会場に開催されました。会場では作品展示や芸能発表会などが繰り広げられ、約300人の来場者を楽しませました。

たくさんさんの歡びにあふれる

文化祭で最も賑わい見せる3日の文化の日には、本別伝統文化継承会、千歳会の子供たちによる「お茶会」や「囲碁コーナー」が催されたほか、生け花や陶芸、絵画など、数々の個性あふれる作品が展示されました。午後5時30分から始まった「芸能発表会」には、20団体3個人の86人が出演。民謡や舞踊、フラダンス、バレエなどが披露され、1日を通して多彩な催しが行われました。来場者は心を込めてつくられた作品などに感心し、芸能発表会の出演者には大きな拍手を送りました。文化祭では、日ごろの練習の成果を「発表する歡び」、多くの来場者が鑑賞し「感動する歡び」などたくさんさんの歡びにあふれていました。



リコーダー2重奏



民謡



舞踊



バレエ



フラダンス

剣舞

平成28年度 スポーツ賞・文化奨励賞 スポーツ奨励賞授賞式



スポーツ賞受賞の佐藤さん

平成28年度スポーツ賞・文化奨励賞・スポーツ奨励賞授賞式が11月3日、中央公民館大ホールで開催されました。スポーツ賞には優秀選手として佐藤安純さんが、文化奨励賞、スポーツ奨励賞は1個人3団体が受賞しました。

授賞式では、中野博文教育長が「心豊かな町づくりに意欲的に活動された方々の努力と業績に対し限りない尊敬と感謝の念を捧げます」と式辞を述べた後、受賞者に賞状などを手渡しました。高橋正夫町長と方川一郎町議会議長の祝辞に続き、受賞者を代表して、文化奨励賞を受賞した各務重男さんが「文化・スポーツの重要性を再認識し、一層精進いたします」とお礼の言葉を述べました。



謝辞を述べる各務さん



町民文芸誌沖積土販売



お茶会でお点前を披露



囲碁コーナー

被害額 約11億8,000万円

続・台風の爪痕

～暮らしの安全・安心に向かって～

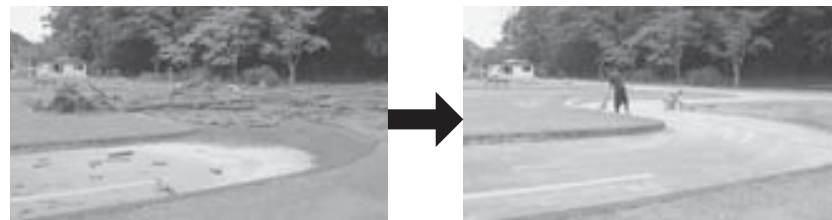
観光施設

被害額 約2,000万円

被害状況 義経の里本別公園～山側からの土砂や倒木により、交通公園、キャンプ場、駐車場、公園緑地などに被害
遊歩道～(神居山) 公園側ゲート土砂崩れなどにより損壊。倒木による支障あり
(義経山) 土石流など危険な状態。静山ルート途中までは通行可能
(弁慶洞) 河川2か所で橋が崩落。第2キャンプ場から見晴らし台までは通行可能

復旧状況

交通公園は9月中旬からゴーカートの利用が可能。来シーズンに向けてその他の施設も復旧作業中



8月 交通公園の復旧状況 9月

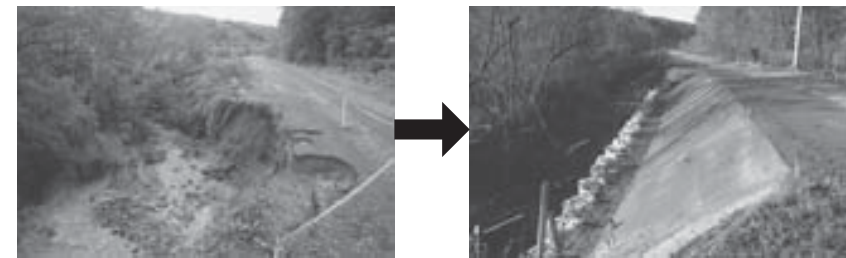
土木

被害額 約2億4,000万円

被害状況 町道～93路線、138か所の路面、路肩が一部崩壊
通行止め22路線 橋梁背面土砂崩落1か所
河川～柏木川、二の沢川が河岸一部決壊



復旧状況 町道～現在5路線が通行止め⇒町の直営作業と災害復旧事業で復旧予定
(明美仙美里間道路、フラツナイ奥仙美里間道路、本別沢道路、仙美里環状道路、活込ダム道路)
河川～土砂や流木の処理は復旧済み



8月 道路の復旧状況 10月

農業

被害額 約9億2,000万円

(うち農作物被害推計額 約8億円)

被害状況 農地～冠水・停滞水・湿害A=1,376ha、
流木・土砂流入・表土流出A=18ha、倒伏A=429ha
鹿柵～土砂崩れ・倒木・排水路の氾濫などによる破損734か所、L=7,101m
明渠排水など～土砂などによる埋塞L=7,400m、法面崩壊など8か所
林道～町内7路線のうち6路線通行止め
流水による路肩・路面崩壊5か所、法面崩壊

復旧状況 農地～農地災害復旧事業等で整備・整備予定
鹿柵～鳥獣害防止総合対策事業などで整備・整備予定
明渠排水～農業施設災害復旧事業、農地等小災害復旧事業債などで整備・整備予定
林道～現在2路線が通行止め⇒農地等小災害復旧事業債などで復旧予定

社会教育施設

被害状況 河川運動公園、パークゴルフ場、静山テニスコートの一部に土砂・流木が流入

復旧状況 各施設復旧済み

今夏、複数の台風が相次いで北海道に上陸または接近し、本別町内においても土砂の流出、道路損壊など甚大な被害が発生しました。広報9月号では2ページにわたり写真を掲載し、町民の皆さんに現状をお伝えしました。現在も災害復旧事業など国や北海道と連携を取りながら一日も早い復旧を目指して取り組んでいます。

本別町暮らしの安全講演会

冒頭のあいさつで、高橋正夫町長は今年の台風被害に触れ、「災害は想定できない」と防災意識の高揚を120人の来場者に呼び掛けた後、主催者であり同協議会の新津会長が障がいのある人の災害避難について、東日本大震災の事例などを紹介しながら「音や光に過敏な人は、辛い感覚・刺激が続くと騒いだりパニックを起こしたりして周囲の迷惑になることもある。避難場所では、障がい者にはなく、困っている人にどのように配慮できるかが重要」として理解を求めました。



町および町自立支援協議会(新津和也会長)が主催する本別町暮らしの安全講演会が10月30日、地域防災力の向上を目的に中央公民館で開催されました。

命を守る三原則は、 情報、知識、備え

の予測ができなかった」とし、地球温暖化の影響とされる経験のない天候が増えている状況を話しました。また、テレビ局で仕事をしていたことについて、予報が外れることを恐れず、命の危険がある場合は「伝える」ことを優先しているとして、「予報は常に参考にしてほしい。情報、知識、備えは、命を守る三原則。防災は地域の連携が重要」と来場者に訴えました。

また、この日は町内の障がい者団体で構成されるチャレンジド・ネットワークほんべつ企画として、NPO法人ほんべつフリースタイル(三井誠子代表理事)が取り組む就労継続支援事業

業で収穫された男爵いもや玉ねぎが販売され賑わいました。



※面積や金額などの情報は平成28年10月末現在のものです

HELLO 本別中学校

本別中学校（池浦暢校長・全校生徒149人）の今年度の活動の様子をご紹介します。多くの町民の皆様のご協力・ご支援をいただき、全校生徒・全教職員が明るい中にも真剣に取り組む学び舎の毎日です。

校訓 真 剣

教育
目標

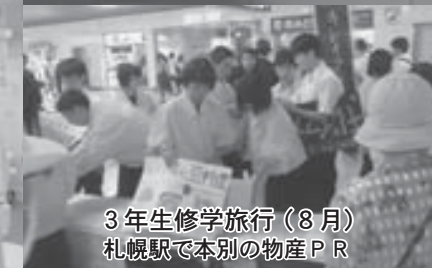
力行 力いっぱい学ぶ生徒
方正 真面目に考え行動する生徒
錬磨 身も心も鍛える生徒

「ほんべつ学びの日」～4つの風の中で～ 学校づくり

文化祭合唱コンクール（10月）
（最優秀賞 3年B組）



文化祭・息の合った学年発表
（2年生『Perfect human』）



3年生修学旅行（8月）
札幌駅で本別の物産PR

2年生職業体験（10月）



1年生野外体験学習（7月）
煙と虫に負けず調理



体育祭（5月）
教師・生徒一体となって

「地域と共に歩み、地域の風が行き交う学校づくり」を目指し、特色ある学校行事と各学年の教育活動が展開されています。日々成長を続ける生徒達の、生き生きとした様をぜひご覧ください。



本中強歩（9月）
初めて町民参加で土曜開催



今年も部活動が大活躍！野球部勇足・本別合同チームは全十勝中体連（7月）で準優勝し、全道軟式野球大会（8月）に出場。吹奏楽部は帯広地区コンクール（8月）C編成で金賞受賞。そして陸上部女子駅伝チームは全道中学駅伝大会（10月）で3位入賞！生徒・指導者の頑張りとお保護者・地域の皆様のご声援のおかげです。ありがとうございます。

町民・地域の皆様、10月の2学年職業体験学習へのご協力、11月の地域参観日へのご来校、誠にありがとうございました！

レクと似顔絵で脳を活性化 10/26

町老人クラブ連合会と町、町教育委員会が連携した、十勝東北部老連ブロック研修会・本別町成人講座が10月26日、中央公民館で開催されました。この日は、「心も体もリフレッシュ！」と題して十勝帯広レクリエーション協会の千葉養子会長ら3人が楽しいレクリエーションを展開。「笑いにはリフレッシュ効果があり、脳も活性化する」として、約110人の参加者らは交流を楽しみながら体を動かしました。また、似顔絵パフォーマーのみやまひろお氏が「私の似顔絵人生」と題して講演し、来場者に似顔絵のコツを伝授した後、音楽に合わせて歌ったり踊ったりしながら似顔絵を描くパフォーマンスを披露すると、会場からは大きな笑いと拍手が送られました。



本中女子駅伝、全道で3位 10/20

10月16日に新得町で開催された第34回北海道中学校駅伝競走大会において、本別中学校陸上部（川崎育愛主将）女子駅伝チームが第3位に入賞し、10月20日、同校で中野博文教育長らに全道大会結果を報告しました。12kmを5人で走りつないだ選手らは、「チームで3位という結果を出せてうれしかった」「練習の成果を発揮できた」などと喜びを語り、中野教育長は、「すばらしいチームワークのもと、3位入賞おめでとう。今後、進学してもいい成績が出せるよう頑張ってください」と健闘を称えました。



ユニークルールで「はしご酒」 10/26

第3回はしご酒ナイト（実行委員会主催）が10月26日、町内19飲食店で開かれました。今回のはしご酒は、ほんべつ若者の輪創造プロジェクト（太田論志実行委員長）との共催で実施。おおむね30歳以下の若者グループには特別ルールが設けられ、若者同士が開催店内で出会うと、メンバーを入れ替えるというユニークな取り組みが行われました。約190人の参加者は、道の駅「ステラ★ほんべつ」内多目的ホールで受け付けをした後、チケットに書かれた4店舗を「はしご」しながら、飲み物を片手に会話を弾ませ、最後は同ホールで行われた抽選会で盛り上がりました。



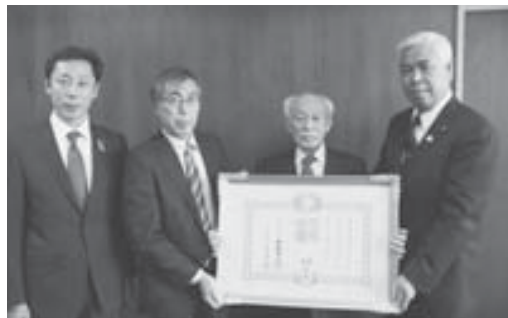
研究の成果を伝える農大市 10/22

北海道立農業大学校（中島隆宏校長）で学生が生産した農畜産物を販売する農大市が10月22日、同校体育館で開催され、多くの来場者で賑わいました。学生らは畜産物、加工品、野菜類のブースで、それぞれが丹精込めて育てた野菜などを販売。時折、購入者から調理方法などを尋ねられると、品種特性などを説明しながら丁寧に対応しました。このほかテントブースでは、学生らが研究した牛肉の試食会や牛乳飲み比べ、ポテトフライ食べ比べなどが行われ、来場者は秋の味覚を満喫しました。



目黒金次郎さんへ叙勲伝達 11 7

元本別町議会議員の目黒金次郎さんが旭日単光章を受賞し11月7日、十勝総合振興局において浜名浩二副局長から勲記と勲章が伝達されました。目黒さんは、昭和57年8月に本別町議会議員に当選して以来、平成22年8月までに6期24年在職。この間、総務常任委員会委員長や文教民生常任委員会委員長を歴任するなど、本町の地方自治発展に大きく貢献されました。目黒さんは現在、帯広市内の高齢者住宅で暮らしており、受賞については「議員として活動していた24年間、町民主体の議会に取り組んできた。この賞は、本別町民の皆さんからいただいたものだと思うっており、皆さんに感謝します」と喜びを語りました。



神居山でバードウォッチング 11 6

第3回ほんべつ学「秋のまなび～本別の野鳥を知ろう」が11月6日、神居山の山手町側遊歩道で行われました。NPO法人日本野鳥の会十勝支部会員の千嶋夏子さん（池田町在住）を講師に迎え、森と川の舎（新津和一代表）会員の道案内で、総勢16人が雪道を歩きながら、野鳥観察を楽しみました。積雪のため予定のコースを短縮しましたが、登山口を出発して間もなく「めったに出会えない」というクマゲラをはじめ、短時間で11種の野鳥を観察することができました。その後中央公民館で写真や剥製を使った「野鳥授業」も行われ、参加者は本別町の自然の豊かさや環境保護の大切さについて理解を深めました。



エーザイと本別町が認知症支援で連携 11 1

エーザイ株式会社と本別町による「認知症を地域で支えるまちづくりに関する連携協定」調印式が11月1日、役場で開かれました。この協定は、同社と本別町が協力し、認知症に対する普及啓発や認知症ケアにおける専門職の資質向上、医療・介護・行政など他職種連携を図ることで、認知症を地域で支えるまちづくりを推進していくためのものです。調印式では、エーザイ・ジャパン地域連携北海道本部加持剛彦部長と高橋正夫町長がそれぞれ協定書に署名。高橋町長は、「この協定は本別町にとって大変大きな力になります。もの忘れ散歩のできる町づくりを今後もより一層進めるため、更なるご支援をお願いいたします」とあいさつし、加持本部長は「製薬会社として認知症を薬だけでなく地域を含む多方面で支援していきます」と語りました。同協定は、本町が全国で70か所目、十勝では2か所目であり、



今後は認知症に関するフォーラムの開催や資料の提供等、さまざまな取り組みが期待されます。

町民がつなく交通安全の波 10 28

町交通安全推進委員会（会長＝高橋正夫町長）が主催する本別町秋の交通安全街頭啓発「人の波運動」が10月28日に行われました。役場前での開会式の後、約300人の参加者は北1～4丁目の国道242号線沿に移動し、「スピードダウン」と書かれた黄色い啓発旗を振りながら、通過する乗用車やトラックなどに交通安全を呼び掛けました。



完成が楽しみ！こども園建設現場を見学 11 14

本別建設業協会（野田仁会長）が11月14日、南・中央保育所と、本別カトリック幼稚園（岩淵つた子園長）の年中・年長児計74人を対象に、来年4月に開園する幼保連携型認定こども園ほんべつ（南3丁目）の建設現場見学会を行いました。野田会長が「建物がどのように造られるか、ゆっくり見学してください」とあいさつ。子供たちは同協会から寄贈されたヘルメットを着用して現場担当者の説明を受け、大型クレーンの作業を見ながら、「あんなに重たいものがどうして持ち上がるの？」など、たくさん質問をしていました。



本別ならではの地域包括ケアを 11 6

本別町地域包括ケア研修会（町主催）が11月6日、総合ケアセンターで開催されました。研修会には、町内の医療機関や介護事業所などに勤務する医師や看護師、介護士など約60人が参加。諏訪中央病院名誉院長の鎌田實氏と東大阪大学短期大学部教授の鷹野和美氏による講演が行われたほか、10月に東京都で開催された第1回地域包括ケア甲子園（地域包括ケア研究所主催）に出場した医大生5人が、それぞれ考案した新たな包括ケア方策を発表。鎌田氏は、「相手を思いやる温かい心で地域包括ケアを進めてほしい」と述べ、最後は参加者同士で意見・感想を語り合い、本別ならではの総合的な包括ケア推進に向けた自治体の役割とチームの大切さを学びました。



一本勝ち目指し、真剣勝負 11 3

第44回東部十勝少年柔道大会（本別町柔道連盟主催）が11月3日、本別中学校体育館で開催されました。大会は幼児・小学生の部と中学生の部でそれぞれ個人・団体戦が行われ、本別、池田、幕別町の少年団から48人が出場。選手らは、父母やチームメイトからの大きな声援を受けながら、1本勝ち目指して真剣勝負を繰り返しました。結果は次の通り（敬称略）。※本別町分、優勝のみ

- 【個人】 幼児・小学1・2年生の部 優勝＝中田雅玖
- 小学3・4年生の部 優勝＝南部弘輝
- 【団体】 小学生の部 優勝＝本別A



色鮮やかな「とり」のカレンダーを完成 10 29

秋の読書週間イベント「和紙のちぎり絵でカレンダー作り」が10月29日、図書館で開かれました。新得町在住のアーティストEbina☆Keikoさんを講師に迎え、参加した町内の小学生や親子など18人が、作り方のコツを聞いた後、さっそくり付け作業に挑戦。用意されたカレンダーの台紙には、来年の干支「とり」の絵が描かれており、参加者は手でちぎった和紙を重ね合わせたり、ちりばめながら、1枚ずつ丁寧に貼り付け、色鮮やかな鳥を完成させました。



みんなの健康

388

腎臓が悪くなり、腎不全となり透析治療を受けることになる患者さんが後を絶ちません。透析患者は全国で今年も年間6千人ほど増加しており、一昨年末の統計では32万人、すなわち約400人に一人というレベルになっています。腎臓という重要な臓器がダメージを受けたとしても日本の透析治療は進歩しており、週3回の治療を続けられれば、元気に生活を続けることができます。とはいえ、腎臓のダメージを食い止めるすべはないのでしょうか。

透析にならないために 腎臓病を克服する新しい治療について

この薬を使用して症状の進行を食い止めることが試みられています。移植医療が進まない現状への立ちや、IPS細胞研究による腎臓の再生医療などへの期待などもありますが、現実に進んでおり、着実な成果を上げつつあるこうした最新の治療にも大きく注目しなければならぬと考えます。



本別町国保病院
人工透析室 技師長
白山 英明

た感染などを契機に免疫機構が暴走し、自分の腎臓を攻撃し始め、腎障害が進行することがわかっており、多くの場合に感染の病巣となつてくる扁桃を切除し、免疫機構の暴走をおさえるステロイドという薬を使用することにより、80%以上の症例で症状の進行を抑えること、または治療することができています。

多発性嚢胞腎とは、遺伝的な病気で、2分の1の確率で子供に遺伝し、高齢になるにつれ腎障害が進行し透析に至ってしまうという恐ろしい病気です。難病指定もされているこの病気ですが、最近、特別な利尿剤サムスカという薬が腎臓を傷害する嚢胞の形成を抑制することがわかり、腎障害の症状が悪化する前に

未来に輝く子どもたち

本別町の未来を担うかわいい星たちです。お父さん、お母さんのたくさんのお愛に包まれてすくすく元気な育つてね！



北4丁目
室矢透子
(雅子ママ)



押帯
山田心暖
(優子ママ)



南1丁目
和田尚果
(尚希ママ)



南4丁目
鹿島隆誠
(敦子ママ)



北8丁目
斎文太
(由希ママ)



緑町
花見陽光
(有美ママ)

※写真は本人に了解を得た上で掲載しています

銀河ホップランド

足寄町

足寄動物化石博物館 体験メニュー

足寄動物化石博物館では、さまざまな化石の石ころレプリカづくりやミニ発掘がいつでも体験できます。

- レプリカづくり(2000円)
- デスマスチルスやサメの歯・アンモナイトなど16種類の中から選ぶことができます。製作時間は40分程度です。
- 古生物模型づくり(4000円)
- ティラノサウルスやデスマスチルスの頭蓋骨など7種類の中から選ぶことができます。製作時間は40分程度です。

陸別町

クリスマス限定 しばれ君・つららちゃんチョコ販売中

今年も「りくべつまちチョコ」の販売を開始しました。第一弾は、「しばれ君・つららちゃんチョコ」です。クリスマスパッケージで1000本限定となっております。

□ミニ発掘(化石・クリスタル) (2000円)
いろいろの工具を使って、石の中から本物の化石またはクリスタルを掘り出します。掘り出した物は持ち帰ることができます。所要時間は30分程度です。

□展示室観覧料
・一般 400円
・小・中学生、高校生、満65歳以上 ※幼児は無料です。団体でご利用される場合はお問い合わせください

□開館時間
午前9時30分～午後4時30分
※毎週火曜日(祝日の場合はその翌日)および12月30日～1月6日は休館です

□問い合わせ 足寄動物化石博物館
☎25191100

□開館時間
お持ち帰り用、ぜひご賞味ください。
□味 カラメルクリスパ、ミルク、ハーゼルナッツ、ホワイトクリスピー

□価格 1本 350円(税込)

□問い合わせ
陸別町観光物産館(道の駅内)
☎2712012
インターネット販売サイト
<http://rk2.theshop.jp/>

ご寄付ありがとうございます 平成28年10月16日から11月15日

- ★台風被害等に伴う災害見舞金 金500,000円
… 中央コンピューターサービス株式会社十勝営業所 所長 川端 康仁
- ★図書館図書購入費指定 金100,000円… 税理士法人TAP 代表社員 内田 勇介
- ★本別町スポーツ振興基金指定 金10,000円
… 本別レディースゴルフクラブ 会長 今野 芳枝
- ★本別町公共施設等整備基金指定 金1,165円 … 匿名

- ★南保育所指定
タオル207枚、バスタオル3枚、おしぼり3枚、日本でぬい8枚 …… 南4丁目自治会婦人部 部長 吉井トヨ子
 - ★老人ホーム指定
トイレトペーパー120ロール、箱ティッシュ120箱 …… 本別民謡友の会 会長 加藤 孝一
 - ★国民健康保険病院指定
かぼちゃ30kg …… 勇足西1 廣野 和 幸
車いす1台 …… 匿名
 - ★本別町子ども未来課指定
建設現場用ヘルメット 児童用74個、大人用12個 …… 本別建設業協会 会長 野田 仁
- 個性あるふるさとづくり寄付条例による寄付
計 金5,310,000円 …… 424人

本のある暮らし

189

本高生が図書館の仕事に挑戦

戸籍のまど

お誕生

10月後半から
11月前半の
届出分

伊藤 董^{すみれ} 桂輔^{ちか} 10/14 美里別西中
久司陸^{りく} 生^おく^ん 和真^{わま} 紗由^{さゆ} 11/4 北5丁目

おくやみ

笠原八重子^{やえこ} 84歳 10/16 上押帯
三川清子^{きよこ} 92歳 10/20 柏木町
樋口仁代^{にしろ} 94歳 10/21 南2丁目
大泉清二^{きよへい} 69歳 10/25 北6丁目
神田 衛^ゑ 86歳 10/28 緑 町
福田サツキ^{さつき} 101歳 10/29 西仙美里
岡本トリヨ^{とりによ} 95歳 11/8 活 込
吉田 稔^{のぶ} 73歳 11/8 チェイ1
高橋ミサヲ^{みさわ} 94歳 11/11 南2丁目
山下 馨^{かほ} 99歳 11/12 柏木町
豊原ツヤ子^{つやこ} 91歳 11/13 美里別西上
青砥 國勝^{くにかつ} 84歳 11/15 柏木町

10月13日と14日、本別高校1年生の2人が、職場体験でさまざまな図書館業務に取り組みました。

ポップ POPづくり ~本の魅力を伝える~

イラストや文章で効果的に本を紹介する手書きのカード【POP】を作成。これらは12月3日の「障がい者週間記念事業・ほんべつ学びの日フェスティバル」で展示されます。ぜひご覧ください。



持ち方、めくり方にも
コツがありますよ

おみごと! 若いセンスが光ります



読み聞かせ ~絵本の楽しさを伝える~

自分で本を選び、読み聞かせに初挑戦。ぶっくる会員から丁寧なアドバイスを受け、格段に上達しました。

「たくさんの人と触れ合い、相手のことを考えて行動することの大切さを学びました」と笑顔で語る平井沙耶さんと千葉葵さん。この職場体験が将来に役立つよう、期待しています。

わたしたちのまち

前月比

人口 7,413人(-13)

男 3,649人(±0)

女 3,764人(-13)

世帯数 3,712戸(-3)

〔10月末日住民基本台帳〕

お問い合わせ先

本別町図書館

(愛称:ぶっくる一丸)

本別町北2丁目 ☎・FAX 22-5112